

弘前城石垣修理

第10回～石垣の解体調査～



▲石垣解体始め式

4月9日に行われた「石垣解体始め式」から、弘前城跡本丸東側石垣の解体工事がスタートしました。工事は平成29・30年度の2ヵ年で実施し、解体の1年目となる今年度は、4月～12月まで現場での作業を進める予定です。

石垣解体工事は、ただ石材を取り外すだけの工事ではありません。石垣の構築年代や構造などを明らかにするため、発掘調査と同時進行で進めます。平成25年度以降、本丸で実施されていた石垣の発掘調査は、石垣上部の様相を事前に把握するためのものでした。人力での掘削により、地表からの深さ約2.5m（上から6石目）までの石垣の背面構造を確認しています。

今年度からは、石垣を解体しながら更に深い部分(上

から20石目前後)の石垣を調査していきます。石垣を一段外すごとに石材の下や背面を調査し、徐々に掘り下げていきます。

先人たちは石垣を積み上げる際、崩れにくくするための工夫をしています。石材の背面に詰められる礫層(裏込(うらごめ))には、石材を安定させたり、水を逃がしたりする働きがあるとされます。また、石垣の背面には人工的な盛土が入るため、それらも締め固められているはずです。石材と石材の接点には、お互いをうまく噛み合わせるための小石(飼石(かいいし))が置かれます。これらの情報は全て、孕(はら)んだ石垣を健全な状態に戻すためのヒントになります。

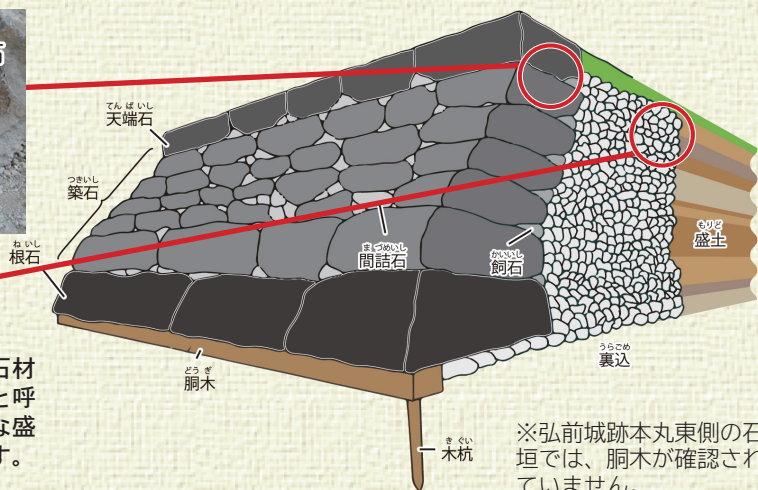
また、石垣解体工事と並行して、解体した個別の石材の調査も進めていきます。石垣として積み上げられた状態では、私たちは石材の1面しか観察することができません。石垣の解体は、石材の隠れて見えない部分を観察する絶好の機会です。修理範囲にある約3,000個の解体石材をひとつひとつ観察し、記録に残していきます。

これらの地道な調査により、私たちは頑丈な石垣を築こうとした先人の知恵を知ることができ、それは私たちが弘前城跡を遠い未来へ引き継ぐために不可欠な「伝統技術」です。その成果を平成31年度以降に実施する石垣の積み直しに活かしていけるよう、慎重に作業を進めていきます。

▼石材「イ-4」を取り外した後…下に置かれた小さな石(飼石)には、石材を安定させる役割があります



▼石垣の背面構造…石材の背面には「裏込」と呼ばれる礫層と人工的な盛土が詰められています。



※弘前城跡本丸東側の石垣では、飼石が確認されていません。

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧下さい。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室(弘前公園緑の相談所内、☎33・8739)